鹿 島 巡 検

前 川 玲 子

古くから地形的に「陸の孤島」と言われ，静かな農漁村であったこの地域に，鹿島灘沿岸地域総合開発構想が持ち上がったのは，昭和35年のことである。以後この地域には大々的な開発が行われて巨大なコンビナートが建設され，6・4方式という鹿島独特の土地買収形態も生み出された。私達2年生の巡検では，この地域へ行くことになった。さて説明会で実施要項が配布されたとき，私達はショックを受けた。なぜなら宿舎名が，なんと「老人休養ホームむつみ荘」とあったからである。単にそれだけの理由で，鹿島巡検は事前に私達の期待を勝ち得ることができぬまま，幕を開けたのであった。

午前11時半に潮来駅に集合，そのままバスで神栖町へ行き，昼食後最初の見学場所である神栖町役場へ。これが町役場?!と思う程，立派な建物であった。庁舎に限らず，まわりの公民館も体育館も，すべてが新しく立派なものばかりであった。鹿島開発に伴う政府の援助や，固定資産税の増収等により，町の財政はかなり豊かなものらしい。私達の案内役を務めて下さったのは，町役場の山田さんであったが，神栖町滞在中ずいぶんとお世話になった。

次に青果物共販連合会という農協のような組織を訪ね，ピーマン栽培の現状についてのお話の他，指定工業地帯での農業の発展がいかに難しく，いかに苦労して補助金を勝取ってきたかというお話を伺った。外車を買ってあげるから鹿島にお嫁においで，という熱心なお誘い（これも青販連の活動の一つだそうだ…）に，思わず心を動かされかけた子もいたようである。続いて，6・4方式による土地買収の代替地でピーマンのビニールハウス栽培を専門に営む典型的な農家にお邪魔して，実際の問題点などを伺った。工場からの粉塵対策として，ビニールの代わりにレントゲンフィルムのような丈夫なものを使用しているそうだ。

一日目の見学は以上で終り，私達はいよいよ宿舎へ向かった。予想外のきれいで快適な宿舎。ネーミングを少し変えてみたら，もっとはやるだろうのに，と思わざるを得なかった。

二日目の見学は，主として工場地帯周辺であった。最初に訪れた東京電力の発電所では，東電の総発電量のうち，実に11.8％も占めているそうだ。説明のあと，200メートルもある巨大な煙突に登らせてもらったのだが，そこから鹿島湾が一望でき，素晴らしかった。もちろんこの煙突，観光用ではないので，鉄骨が組んであるだけで，そこここの隙間から真下が見えるのである。エレベーターで折角上まで行きながら，そこから一歩も外に出てこられず，従って素晴らしい景色を楽しむことができなかった人若干名。自分が高所恐怖症でないことに感謝した一場面であった。

東京電力のあと，三菱油化の広大な工場をバスでぐるりと回り，強烈な臭いを発している深芝処理場へ。ここは鹿島臨海特定公共下水道として建設されたもので，全処理量の3分の2以上が工場排水である。例の臭いの正体は，排水中に含まれる化学物質によるものだということが判明した。

この日最後に訪れたのは，「鹿島農業の父」とも呼ぶべき坂本さん宅であった。ここでは鹿島の変貌や農業発展の歴史など，生きたお話を伺うことができた。何よりも興味深かったのは，坂本さん自身が携わった，ピーマンを鹿島へもたらす事業の体験談であった。今では波崎，神栖，鹿島の三町で京浜市場の約50％の割合を占める鹿島のピーマンは，戦後坂本さんたちの尽力によって初めてこの地にもたらされたものなのである。

最終日は神栖町を離れ，有名な鹿島神宮を擁する鹿島町を訪れ，役場と鹿島神宮を見学した。情けないことだが，この頃になるとメモを取るのにも疲れきっていたので，お宮の鹿にニンジンをやったこと，友達のおみくじが「半吉」だったことくらいしか思い出せない。こうして私達は夕刻，疲労と知的充実感を味わいながら帰途についたのであった。

（10月1日～3日　内藤教官指導）